

2012年合格目標

TAC 公務員講座

1.5年総合本科生/1.5年トリプル本科生

開講オリエンテーション

CONTENTS

- ・ 公務員試験の特徴（シケンのカラクリ）
- ・ 学習スタンス・方法（ゴウカクするベンキョウ）

担当：新垣

開講オリエンテーションにご参加頂きありがとうございます。

本日は、「合格のための第一歩」として、試験の特徴とその攻略法についてお話をさせていただきます。公務員試験は「頭の良さ」ではなく「要領の良さ」が問われる試験といわれます。攻略しなければならない科目が非常に多い公務員試験では、「うまく」勉強することは重要な意味をもっています。個別の科目について学習する前に、受験全体の学習戦略について確認いたします。

公務員試験の特徴

【1次試験日程】

22年度		試験名			
5月	5/2	国家 種(32)	西東京市		
	5/9	東京都 類B(28)	特別区 類(27)		
	5/16	国立大学等採用試験(28)	武蔵野市		
	5/22	衆議院事務局 種			
	5/30	裁判所 ・ 種(30)			
6月	6/5	参議院事務局 種			
	6/13	国税専門官(28)	労働基準監督官(28)	法務教官(28)	東京都 類A
	6/20	国家 種(28)			
	6/27	道府県上級	政令指定都市上級	市役所上級 A	
7月	第4日曜	市役所上級 B			
9月	第3日曜	市役所上級 C			

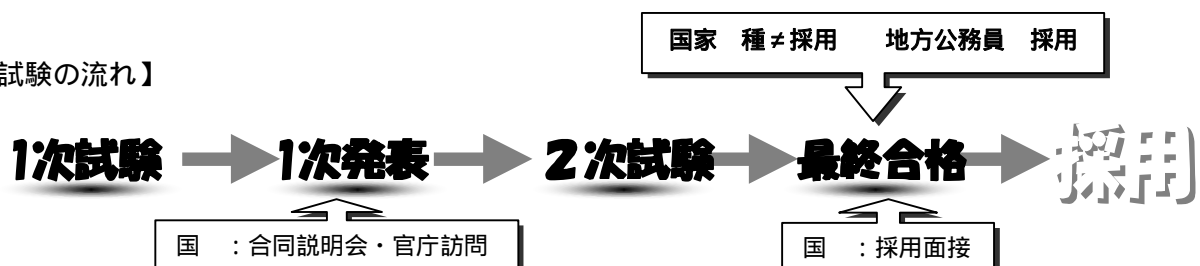
()内は受験年度の4月1日現在で受験が可能な年齢上限
同一実施日の試験は同時に受験することはできません

21年度試験倍率(主な試験)

試験種	(申込者)受験者	1次合格	最終合格	倍率	1次倍率	2次倍率
国 (行政関東)	(13,386)	2,687	1,625	8.2 ↑	4.9	1.6
国税専門官	(16,833)	4,243	2,307	7.3 ↑	3.9	1.8
労働基準監督官 A	(2,839)	298	151	18.8 ↓	9.5	1.9
裁判所事務官 種(東京)	(4,854) 3,368	1,207	404	8.3 ↑	2.8	2.9
東京都 類B	(5,308) 3,023	1,258	563	5.3 ↓	2.4	2.2
特別区 類	(12,180) 9,397	2,215	1,231	7.6 ↑	4.2	1.8
埼玉県	(1,554) 1,000	212	73	13.6 ↑	4.7	2.9
さいたま市	(1,678) 1,264	195	110	11.4 ↑	6.5	1.7
千葉県	(1,891) 1,188	197	91	13.0 →	6.0	2.1
千葉市	(785) 629	133	77	8.2 ↓	4.7	1.7
神奈川県	(1,951) 1,065	478	175	6.0 ↑	2.2	2.7
横浜市	(3,238) 2,524	1,286	379	6.6 ↑	1.9	3.4
川崎市	(1,331) 984	218	138	7.1 ↑	4.5	1.6
茨城県	(903) 683	76	36	18.9 ↓	8.9	2.1
栃木県	(727) 577	149	57	10.1 ↑	3.9	2.6
群馬県	(995) 818	181	72	11.3 ↑	4.5	2.5

矢印は前年の倍率に対して(↑:上がった, ↓:下がった, →:変化なし)を表しています。

3.【試験の流れ】



国家 ・ 種については、採用の内定を得るために「官庁訪問」を行う必要がある。

4【22 年度：主な試験の実施形式】

試験種	1 次試験					2 次試験			備考
	教養試験		専門試験		専門 記述	論文	個別 面接	集団 討論	
	時間	出題	時間	出題					
特別区	120 分	40/52	90 分	40/55	-	○		-	論文は 1 次試験で実施
東京都	110 分	40	-		120 分	○		-	専門記述は 3 題
国	150 分	45/55	180 分	40/80	-	○	○	-	専門択一は 8 科目選択。
国税	180 分	45/55	140 分	42/77	80 分		○	-	専門択一は 6 科目選択。
裁	150 分	40	90 分	30	120 分	○	○	-	記述は憲法と教養論文
労基 A	180 分	45/55	150 分	42/50	120 分		○	-	教養は国税と同一問題。
防	150 分	50	120 分	40	-	○	○	-	論文は 2 題中 1 題選択。
埼玉県	120	40/50	120	40/50	-	○		○	：2 回実施
千葉県	120	40/50	120	40/50		○	○	○	
千葉市	150	45/55	120	40/50	-	○	○	-	
川崎市	150	50	120	40	-	○	○	-	

5.【択一試験出題科目（22 年度）】

教養択一試験			埼玉県	特別区	国
一般 知能	文章 理解	現代文 + (古文)	5 + (2)	4	5
		英文	5	3	3
	数的 処理	判断推理	4	4	9
		数の推理	3	4	5
		資料解釈	3	4	3
		空間把握	-	3	-
	小計		22	22	25
一般 知識	社会 科学	政治・法学・経済	7	5	7
		社会 + (事情)	3	1 + (6)	3
	人文 科学	日本史	2	1	1
		世界史	3	1	2
		地理	2	1	3
		思想	1	1	2
		文学・芸術	1	1	2
		国語	-	1	-
	自然 科学	数学	2	2	2
		物理	2	3	2
		化学	2	3	2
		生物	1	2	2
		地学	2	2	2
	小計 (解答 / 出題)		18/28	18/30	20/30
出題数		50	52	55	
解答数		40	40	45	
解答時間		120 分	120 分	150 分	

専門択一試験		埼玉県	特別区	国
法律 系	憲法	4	5	5
	民法	4	5 + 5	5 + 5
	行政法	5	5	5
	労働法	2	-	-
	刑法	2	-	-
	商法	-	-	-
	経済原論	12	5 + 5	5 + 5
経済 系	財政学	5	5	5
	経済政策	1		
	経済事情	-		
	経済史	1	-	-
	政治学	4	5	5
政治 系	行政学	4	5	5
	社会政策	2	-	-
	社会学	-	5	5
	国際関係	2	-	5
	経営学	2	5	5
	その他	-	-	心理 5, 教育学 5
	英語 (基礎)	-	-	5
	英語 (一般)	-	-	5
出題数		50	55	16 科目
解答数		40	40	8 科目
解答時間		120 分	90 分	180 分

数的処理は教養試験に占める割合が 25 ～ 38 % と高い。

基本講義科目 (法律主要科目 + 経済系科目 + 政治学) は専門試験に占める割合が 80 % 前後になる。

6.【試験のカラクリ】 22 年度の試験制度

国 のカラクリ

採点基準

国家 種(行政)	試験種目	配点比率
第 1 次試験	教養択一	2
	専門択一	4
	論文	1
第 2 次試験	人物試験	1
配点比率合計		8

配点比率合計を 8 として表示。

標準点の算出方法

$$\text{標準点} = 10 \times \text{配点比率} \times \left(15 \times \frac{\text{得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

1 次試験の合否は「教養択一 + 専門択一」で決定されます。配点比率から考えると、専門択一試験でより多くの得点を取ることが重要だといえます。ただし、「教養択一、専門択一」においては最低限必要な基準点があります。基準点(満点の 35 ~ 40%)に達しない試験種目が一つでも存在する受験者は、他の試験種の成績に関わらず不合格となるので注意して下さい。

論文試験は、1 次試験で実施されますが、2 次試験扱いになっています。1 次合格者を対象に評定し、得点化します。ここでも、基準点(満点の 35 ~ 40%)が存在しますので、ご注意下さい。

人物試験では、受験者を A ~ E の 5 段階で評価しますが、E 評価になった者は、基準点を満たさない者とされてしまい、不合格になります。A ~ D 評価である者に対して、得点化します。

最終の合否については、1 次試験の標準点 + 2 次試験の標準点を合計して決定します。

平均点の推移 (行政区分)

教養試験	満点	平均点	標準偏差
22 年	4 5	2 1 . 4	5 . 7
21 年		2 5 . 1	6 . 4
20 年		2 3 . 9	5 . 7
19 年		2 4 . 7	6 . 0
18 年		2 3 . 6	5 . 8
17 年		2 4 . 4	6 . 1
16 年		2 1 . 3	5 . 6

専門試験	満点	平均点	標準偏差
22 年	4 0	1 9 . 4	6 . 3
21 年		1 9 . 3	7 . 3
20 年		1 9 . 4	6 . 8
19 年		1 9 . 7	7 . 2
18 年	4 2	1 8 . 8	7 . 6
17 年		2 0 . 9	7 . 4
16 年		2 0 . 2	7 . 5

標準偏差とは...「ばらつき」を示します。その数値が大きければ大きい程、できる人と出来ない人との差が激しいということになります。上表でわかるように、専門択一試験の標準偏差の方が大きいので、その出来不出来が合否に大きく影響することになります。

基準点の推移

基準点	教養試験	専門試験
22 年	1 6 点 (問)	1 6 点 (問)
21 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
20 年	1 6 点 (問)	1 6 点 (問)
19 年	1 6 点 (問)	1 6 点 (問)
18 年	1 6 点 (問)	1 6 点 (問)
17 年	1 6 点 (問)	1 7 点 (問)
16 年	1 6 点 (問)	1 7 点 (問)

新試験制度対応

国 試験は 2012 年から試験制度を変更する予定になっています。本コースでも新しい試験制度に対応致します。

国税のカラクリ

採点基準

国税専門官	試験種目	配点比率
第1次試験	教養択一	2
	専門択一	3
	専門記述	2
第2次試験	人物試験	2
配点比率合計		9

配点比率合計を9として表示。

標準点の算出方法

$$\text{標準点} = 10 \times \text{配点比率} \times \left(15 \times \frac{\text{得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

1 次試験の可否は「教養択一 + 専門択一」で決定されます。配点比率から考えると、専門択一試験でより多くの得点を取ることが重要だといえます。ただし、「教養択一・専門択一」においては最低限必要な基準点があります。基準点(満点の 35 ~ 40%)に達しない試験種目が一つでも存在する受験者は、他の試験種目の成績に関わらず不合格となるので注意して下さい。

専門記述試験は、1 次試験で実施されますが、2 次試験扱いになっています。1 次合格者を対象に評定し、得点化します。ここでも、基準点(満点の 35 ~ 40%)が存在しますので、ご注意ください。

最終の可否や順位については、択一試験の標準点 + 記述試験の標準点で大部分を占めますので、ペーパーテストの点数が重要な意味をもっていることがわかります。

平均点の推移

教養試験	満点	平均点	標準偏差
22 年	4 5	2 4 . 2	6 . 4
21 年		2 6 . 1	6 . 5
20 年		2 5 . 6	5 . 8
19 年		2 3 . 4	5 . 7
18 年		2 4 . 1	6 . 0
17 年		2 3 . 3	5 . 6
16 年		2 3 . 6	5 . 4

専門試験	満点	平均点	標準偏差
22 年	4 2	2 1 . 3	6 . 9
21 年		2 1 . 6	6 . 9
20 年		2 0 . 2	6 . 9
19 年		2 0 . 9	6 . 8
18 年		1 9 . 9	6 . 0
17 年		2 1 . 5	6 . 9
16 年		2 1 . 5	6 . 7

標準偏差とは...「ばらつき」を示します。その数値が大きければ大きい程、できる人と出来ない人との差が激しいということになります。つまり、標準偏差の大きい試験種目の方が可否に強く影響するといえます。配点比率のことも合わせて考えると、専門試験の重要性は国家 種同様、国税専門官試験でも高いと考えることができます。

基準点の推移

基準点	教養試験	専門試験
22 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
21 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
20 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
19 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
18 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
17 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)
16 年	1 6 点 (問)	1 5 点 (問)

新試験制度対応

国税専門官試験は 2012 年から試験制度を変更する予定になっています。本コースでも新しい試験制度に対応致します。

裁 のカラクリ

採点基準

国家 種(行政)	試験種目	配点比率
第 1 次試験	教養択一	1
	専門択一	1
	教養論文	0.5
	憲法論文	0.5
第 2 次試験	人物試験	3
配点比率合計		6

配点比率合計を 6 として表示。

標準点の算出方法

$$\text{標準点} = \text{配点比率} \times \left(10 \times \frac{\text{得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

平均点の推移

種	試験種目	満点	基準点	平均点	標準偏差
22 年	教養試験	40	13	14.67	3.62
	専門試験	30	14	17.43	5.61
21 年	教養試験	40	13	16.46	4.20
	専門試験	30	14	14.76	5.03
20 年	教養試験	40	14	16.33	4.07
	専門試験	30	14	14.96	4.88
19 年	教養試験	40	13	15.87	3.76
	専門試験	30	14	15.28	5.43
18 年	教養試験	40	16	16.82	3.66
	専門試験	30	14	14.83	4.90
17 年	教養試験	40	17	18.20	4.07
	専門試験	30	12	12.93	5.25

標準偏差とは...「ばらつき」示します。その数値が大きければ大きい程、できる人と出来ない人との差が激しいということになります。上表でわかるように、専門択一試験の標準偏差の方が大きいので、その出来不出来が合否に大きく影響することになります。

1 次試験の可否は「教養択一 + 専門択一」で決定されます。配点比率は同じなので、教養と専門のバランスはあまり気にしなくてもよいといえます。ただし、「教養択一、専門択一」においては最低限必要な基準点があります。基準点(満点の 30 ~ 50 %)に達しない試験種目が一つでも存在する受験者は、他の成績に関わらず不合格となるので注意して下さい。

教養 & 憲法論文試験は、1 次試験で実施されますが、2 次試験扱いになっています。1 次合格者を対象に評定し、得点化します。ここでも、基準点(満点の 30 ~ 40 %)が存在しますので、ご注意下さい。

人物試験は、総配点の半分を占めており、実質的な勝敗の行方は「個別面接」にかかっているといっても過言ではありません。最終の可否については、1 次試験の標準点 + 2 次試験の標準点を合計して決定しています。面接では 6 段階評価(S,A,B,C,D,E)で、S ~ C が採点対象になっています(D,E は不合格)。

特別区 類のカラクリ

《教訓》特別区 類の試験は東京都 類と同様に...

論文・面接の配点がかなり高い!

(1 次試験)

試験科目	教養試験	専門試験	論文
試験方法	52 題中 40 題解答	55 題中 40 題選択解答	2 題中 1 題選択
試験時間	2 時間	1 時間 30 分	1 時間 20 分

教養試験 : 52 題中 40 題解答。自然科学の出題数が増えました。他の試験種では見られない「国語」の出題があり、古典・諺・熟語・慣用句の中から 1～2 問出題されます。

専門試験 : 55 題中 40 題選択解答制です。他の地方上級試験に比べ、基本的な問題が多いといえます。

論文試験 : 課題形で 2 題中 1 題を選択解答します。1000 字以上 1500 字程度。3 行程度の文章で課題が出され、「～あなたの考えを論じなさい」という形式。

(21 年度本試験データリサーチより抜粋)

受験者	教養	専門	合計	得点率	結果	総合点	順位
No.1	33	39	72	90%		460	33
No.2	22	29	51	64%		451	62
No.3	29	41	70	86%		435	133
No.4	22	28	50	63%		428	163
No.5	24	24	48	60%		400	369
No.6	39	33	72	90%		398	403
No.7	24	20	44	55%		388	572
No.8	24	22	46	58%		360	920
No.9	30	37	67	84%	○		
No.10	32	34	66	83%	○		
No.11	23	25	48	60%	○		
No.12	24	23	47	59%	○		
No.13	35	32	67	84%	×		
No.14	32	31	61	76%	×		
No.15	26	31	57	71%	×		

昨年度までの特別区では、択一試験に加え、論文を一次の段階で採点していたようです。下表の No.13～15 の受験者からも分かります。一次の可否は択一試験の成績だけで決定されていないことは明らかです。配点については全く不明ですが、論文のウェイトはかなり高かったことが推測できます。

また、面接試験が 2 回実施されることや、最終合格者に開示される総合得点・順位と受験者からの情報を総合して考えると、2 回の面接試験の点数も決して配点が小さくないことが推測できます。つまり、一次試験で少々出遅れてしまった場合でも、面接試験での挽回は十分に期待できたものと考えられます。

(2 次試験)

個別面接 : 16 年度試験以降 2 回実施に変わりました。1 回目の面接では「今までに最も力を入れて取り組んだことは何ですか。(8 行)」「今までに最も大きなプレッシャーを感じた出来事について教えてください。(8 行)」について記入させた面接カード使用して実施されました。2 回目の面接では 2 回目用の面接カードを使用して実施されました。

学習スタンス・方法

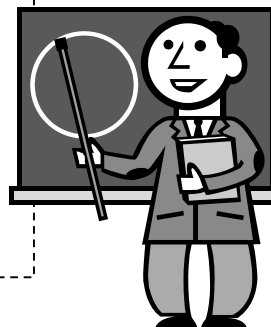
問1 下記は公務員試験の受験結果とそれに対する発言者の関係を示している。

このような現象が起こる要因として最も妥当なものは次のうちどれか。

『あんなに勉強したのに...』 (談:不合格者)

『そんなに勉強してないよ』 (談:合格者)

1. 地頭のよさ
2. 運・不運
3. 共にマークミス
4. 「あんなに」と「そんなに」の基準の違い
5. 勉強の「質」の問題



ヒント

1次試験に限って言えば、公務員試験の合格者の特徴は...「うまく勉強した人」。

目標を持ち、その目標のために必要なことを理解し、確実に成果を出せるよう行動した人が合格すると思います。「うまく勉強する」について考えると、「うまく」はもちろん「要領よく」という意味で、受験する試験種のカラクリや科目等の優先順位を考えた上で、自分にあった効率的な学習をすることといえます。効率的な学習は知識の吸収(取捨)と集積(管理)がポイントになります。一方、「勉強」とは、「勉める(ツトメル)ことと、強いる(シイル)こと」です。言い換えると、自分をコントロールすることと言っても差し支えないと思います。...受験では「自分をコントロールする」ことは特に重要なことではないでしょうか？

自分と**試験種**と**科目**を考えて...

「うまく」
「勉強する」

単技術の問題
単戦略の問題

【戦略の問題】

まずは戦略から...このコースは「1.5年本科生」となっていますが、初年度の半年間(2010年秋～2011年春)の「0.5年」と2年目の一年間(2011年春～2012年夏)の「1年」に分けて考えます。

初年度(0.5年)

「1.5年本科生」として学習を進める上で意識したいことは、最初の半年間で受講する科目が最も重要な科目だということです。初年度(2010年秋～2011年春)で設定している基本講義(59回)は多くの試験で出題され、かつ、出題数が多い科目です。しかも、これらの科目の中には、多くの受験生が苦手意識を持つ科目が含まれています。

一般に、[数的処理]、[経済原論(特にミクロ経済学)]、[民法]の3つが三大苦手科目といわれています。初年度の学習はこれらの科目にじっくり取り組み、「苦手」ではなく「得点源」にすることが目的になります。つまり、最初の半年で「合格の土台を作る」ことが「1.5年本科生」の戦略になります。

- 数的処理(16回)
- 憲法(8回) 民法(14回)
- ミクロ経済学(11回) マクロ経済学(10回)

これから学習する科目のうち、三大苦手科目（数的、民法、ミクロ）は理解するために じっくり時間をかけて復習すること、何度も繰り返し学習することが大切になってきます。暗記項目が少なく、理解することを重視する「知能系科目」の数的処理とミクロ経済学に関しては、特にこのことが言えます。

二年目(1年)

2012 年春から始まる一年間は、初年度で学習した科目に加え、試験ごとに必要な科目と記述試験などの対策を行います。学習の詳細については 2012 年目標のオリエンテーションに参加して確認してください。ここでは学習以外の戦略について触れます。

まず、公務員試験は「就職試験」であることはご承知のとおりですが、学習の負担が大きいため、せっかく一次試験に通過しても、二次試験での対策がおろそかになってしまう方もいらっしゃいます。この「1.5 年本科生」は確実に合格を勝ち取るために二年目を、「就職のための準備を万全にする」時期であるということも意識しましょう。

就職に向けた準備

経験値を高める

職業観を確立し、自分にしかない「売り」をつくる。

ボランティア体験
インターンシップ
行政イベントへの参加
アルバイト・サークル活動

大学 2 年～3 年次の学生生活では、さまざまな経験をする時期です。公務員試験の「学習だけの一年間」では、人間としての成長はできません。自分の魅力を最大限にアピールすることができないと面接試験はうまくいきません。2012 年の春～初夏にかけて、行政のインターンシップなども行われています。初年度の学習がうまくいっていると、このようなイベントにも参加できます。

また、民間との併願について考えている方は、しっかりと初年度の学習ができていれば、併願する民間の社数を絞り込めば問題ありません。活動する時期が直前期なので、10 社前後とする方が多いのが現状です。

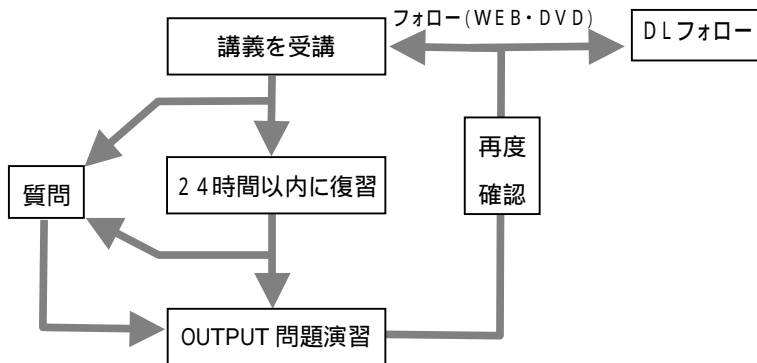
情報の収集

本当に興味がある者は、情報を集めている。

新聞を毎日読む
業務説明会に参加する
HP や広報誌・パンフレットに目を通す

[戦略の問題]

復習中心の学習プロセス (Plan → Do → Check → Action)



フォロー体制 (通学の場合)

校舎間振替 & 重複受講制度
Web フォロー (有料)
個別 DVD フォロー (有料)
ダウンロードフォロー (無料)

質問制度 (通学の場合)

講義終了後 質問カード
(講師室) 質問コーナー

まだ講義が終わっていない科目

インプット中心 (必ず復習する時間を設ける)

既に講義を終えていて時間が経過している科目

アウトプットの場合 (V 問題集・過去問集)

インプットの場合 (DL フォロー & レジューメ: 速聴で繰り返す)

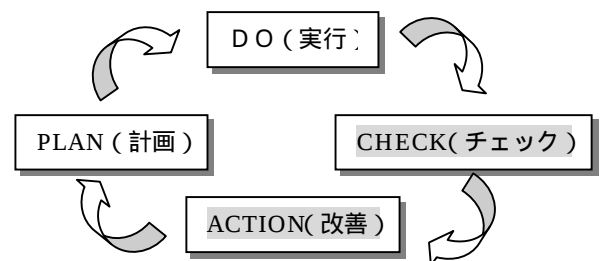
公務員試験受験者は耳を使った勉強方法を軽視する方が多い
メリットは計り知れない...記憶の定着には「音」が重要な役割を果たす
スピード調節 (1.5 ~ 2.0 倍速) で短時間かつ効率的な復習 (目と耳の両方を使う)
立ったまま勉強できる (電車でインプット: 1 科目 / 1 週間...2 ~ 3 回は繰り返せる)

インプット→アウトプットの流れ

皆さんの目的はあくまで「採用」を勝ち取ることにあるわけですから、最終的には「得点力」を身に付けることが成果として求められています。学習は、必要な知識をインプットし、詰め込んだものを取り出し、整理する (アウトプット) という流れになっています。

頻出分野から手をつけるのはいうまでもありませんが、それを念頭に問題集をやっているものの、思ったより時間がかかると感じる人が多くいらっしゃいます。その原因の 1 つは、インプットとアウトプットを並行して行うために起こっている可能性があります。そのときは、勉強の進め方をもう一度検証するようにしましょう。

問題を解いた後に、解説やノート・テキストなどを利用して、見直しを図る方が多いと思います。学習の成果をチェックし、足りない知識 (課題) があればそれを補充するのは決して間違っていない。しかし、1 問解く度に見直しを図ると、当然時間がかかることになります。気が付くと、数問しかやっていないのに 1 日が終わろうとしていることがあったりします。効率よく問題演習を進めるためにはどのような工夫ができるでしょうか。



アウトプットのは「成果」と「課題」を仕分けるためにあります。つまり、今後の学習戦略を考えるためにあるのです。なるべく合否に関わるような重要な課題を優先的にケアしたいので、無駄な時間はかけられません。そこで、なるべくインプットとアウトプットは別の作業だと考えて分けるのが理想的だということになります。したがって、問題演習をする際はその問題を解いた日付を記入する、解いた問題に対してそのときの理解度(ランク付け)を記入することが大切です。

一定量の問題を解いた後に、理解度別に優先度をつけた見直しを図ることで、効率よく学習を進めることができるようになるはずです。

「解説をみる」前に「ランク付け」

問題を解いた際、その理解度の高い方から順にA・B・C...とランク付けしていきます。その上で、知識が不十分なものの内、今後得点の可能性(ランク)が高いもの(B)から優先的に見直しを図ります。

理解度	高	比較的理解度の高い問題は、その正誤にかかわらず、補充する情報が少量ですむので、短時間の対策で済みます。つまり優先的に <u>解いたその場で解説を読んだりし、知識の補充・定着をはかります。</u>
	低	理解度の低いものは、追加する情報量が多く、時間がかかるので、その場での見直しは非効率的です。つまり、その分の時間は節約して、今後の課題として <u>別途、学習の機会を設けるようにします。</u>

理解度(例)	A(100%)	B(70%以上)	C(30~70%)	D(30%以下)
評価	完成	完成間近	中途半端	知識(学習)不足
補充する情報量	—	少	中	多
得点の可能性		大	中	小
対策	時間を置いて繰り返しのみ	解いたその場で知識を補充・確認し、その後時間を置いて繰り返す	その科目・分野の重要度をチェックし、それに応じて別途インプット。	

科目別学習方法(スタンス・目標) 科目別学習方法の詳細については、各科目の初回講義で案内する予定。

ミクロ経済学・マクロ経済学とも、学習をはじめてすぐに結果の出る科目ではありません。個人差はありますが、両科目とも基本講義を終えた後、1~3ヶ月間十分な復習(=理解)をし、問題演習を重ねてからようやく科目の全体像が見渡せるようになります(=基本的な知識・理解が定着する)。近年、ミクロ経済学・マクロ経済学は、「易化」傾向にあり、基本的な知識・理解(暗記は×)が備わっていれば十分に「満点」を狙えます。よって、毎年合格者を対象にしたアンケートでは、合格者のほとんどは経済学を得意科目、もしくは得点が安定していた科目としています。つまり「経済学から逃げる」=「不合格」といっても過言ではありません。

経済学を攻略するには、とにかく「理解」に時間を費やし、十分な問題演習をおこなうこと(問題演習だけ×→パターン暗記では専門記述や応用に耐えられないです)!これに尽きます。もし、少しでもわからない箇所が出たらすぐに講師に「質問」です。経済学は理屈のつながりが非常に大切なので、1つわからないところがあると全てがわからなくなります。みなさん頑張って学習に励んでください。講師陣も全力でみなさんのサポートをさせていただきます。ともに合格を勝ち取りましょう!

憲法は得点源になる科目です。民法と比較すると学習効果がみえやすい科目だからです。特に受験科目としての憲法は法律科目の中では学習しやすい科目です。人権については基本判例、統治については基本条文を押さえれば本試験に十分対応できます。行政法も得点源になりうる科目です。全般を通じて判例が特に重視されますので、基本判例の理解に努めてください。

民法 上記科目と異なり、民法は総則・物権・担保物権・債権総論・債権各論・家族法と範囲が膨大なために多くの受講生が苦手意識を持っています。民法の量の多さにどう対応するかがポイントです。但し、受験で問われることはかなり限定されています。まずは講義に欠席しないことです。この科目は特に前回の講義をベースに次の講義が展開されることが多いです。したがって、講義を1回でも欠席すると理解が困難になりやすいです。講義で不明な点があれば、すぐ担当講師に質問するようにして下さい。積み重ねが特に重要な科目です。内容的には理論を重視する部分や専門用語が多いのも特色ですので、自分の日常的なレベル(日常の買い物、レンタル等)に引き直して学習することがポイントです。民法は行政法との結びつきも強いので、行政法と関連づけながら学習すると相乗効果が期待できます。講義をきく→問題集をとく、このサイクルを反復することがポイントです。民法が主要科目の中では最も時間がかかるのも事実ですが、あきらめずに地道な学習をすることがポイントです。合格者も民法に苦労しながら合格しています。